

課題解決型「ICTを活用した国際協働学習」の実践

防災世界子ども会議（NDYS）と葺合高等学校の10年

神戸市立葺合高等学校 茶本 卓子

本校では、国際科2年生の「総合的な学習の時間」を「グローバルスタディーズ」と名付け、週2時間、英語で課題研究を行っています。その中に「防災」をテーマにしたプロジェクト学習があり、自然災害の発生メカニズムや減災ための対策を学び、安全マップや防災学習ゲームを作成しています。NDYSのネットワークに支えられ、この取り組みを、課題解決型「ICTを活用した国際協働学習」へと発展させることができました。

1. はじめに

防災世界子ども会議（NDYS）は、阪神・淡路大震災の10周年事業として、2005年1月18日、兵庫県淡路夢舞台で第2回国連防災世界会議「パブリックフォーラム」を開催され、本校はこのスタート時より、NDYSへ参加しています。

神戸市の中心に位置し、震災で3名の在校生を失った高校として、私たちには問題点を考察し、被害を最小に食い止めるため、防災学習を進め、発信していく責務があると考え、「阪神大震災の教訓」と題して英語と日本語で発表しました。この日、トルコ、イラン、インドネシアから参加の同世代の発表を聞き、またテレビ会議を通して、大地震の被災地であったイランのバムの高中生と震災からの復興について英語で意見交換をしました。



NDYS2005 イラン・バムとのテレビ会議
第2回国連防災世界会議「パブリックフォーラム」

あれから10年、iEARNという組織が持つ世界規模のネットワークとICTを駆使することで、グローバル時代における双方向の国際協働学習が可能となり、この課題解決型の学びに継続的に取り組んでいます。

2. 目的と方法

NDYSの国際協働学習は、年度当初に事務局が示したテーマと課題について参加希望校が、アイアーンのコラボレーションセンターをプラットフォームとして、Web上で情報発信、共有しながら課題解決型学習を展開します。

そのまとめとして、ネットワークに参加した世界各地の小中高生が一堂に集い、合宿を行います。寝食を共にすることで、文化や宗教の違いを超えて、互いの理解が深まり信頼関係が構築されていきます。ICTを使ったオンライン学習やテレビ会議に加え、直接対話をしながらさまざまな国籍の若者が共同宣言を作り上げるためにディスカッションをします。学びあい、異文化交流の機会が友情の輪を広げ、子どもたちの絆をさらに深めています。

教員にとっても意欲の高い経験豊かな海外の先生方と目標をひとつにして課題研究を深めることができるこのプログラムは大きな刺激になっています。

3. 活動内容

実際の活動としては、年度のテーマ（2014年は、『異常気象と防災・減災について』）について、自国の現状を調査し、解決への対策を調べ、発表し、意見交換をしました。

さらに、課題や解決に至ったプロセスをレポートにまとめ、NDYSのWeb上に公開します。事前に各校のレポートを読んだ後、世界各地からみんなが集まった会議で、聴衆に理解してもらいやすいように、ステージ上で写真や図表をつけ、パワーポイントを用いた発表をしています。



NDYS2015

「防災世界子ども会議 2015in とよた」での発表

持参したポスターの前で各グループが一斉に、目の前の観客と双方向の意見交換や質疑応答を交えながらプレゼンテーションを行うこともあります。

さらに参加者が一堂に集まって防災関連の専門家の基調講演を聴いたり、問題解決のためのディスカッションを行ったり、ポスターや安全マップ、絵、オブジェなどを展示するなど、情報共有をします。そして最終日、共同宣言文を採択・発信します。



NDYS2015 参加国代表による「NDYS2015 宣言文の作成」
司会進行&通訳を担当

使用言語は英語と開催国の母国語を使用し、バイリンガルで進行し、生徒たちは通訳や会議の司会進行を引き受けながら、互いのコミュニケーションを深めています。

英語が使えることは必要ではありませんが、正しい知識に裏打ちされた意見をわかりやすく述べる力や言語・文化の違う人たちが気持ちよく意見交換ができる場を設定できる柔軟性と思いやりを持つことが大切であると考えます。

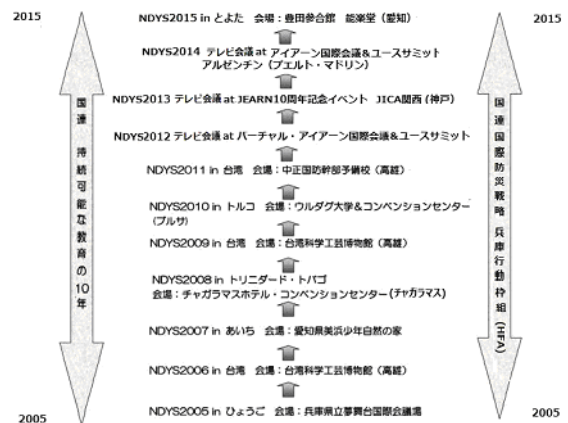


NDYS2014 アイアン世界大会（アルゼンチン）
発表音声付き英語によるプレゼンテーションで参加

4. 成果と課題

淡路夢舞台から10年、参加した生徒たちは、自信と行動力をつけ成長してまいりました。課題解決に取り組む形の国際協働学習は、一つの学校では取り組みにくいものです。それがJEARNの手にかかれば、ネットワークを使って難なく実現してまいります。少しでも国内外の学校が積極的にこの取り組みに参加してもらえることを希望します。そのためにもさらに意味のある斬新な企画とその成功を目指していければと考えています。

図1 これまでに参加した会議



提供：防災世界子ども会議実行委員会